



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらい内
TEL&FAX:0744-47-3981
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

平成25年2月

うるわし通信

新春交流昼食会

年が改まって1月26日、恒例の新春交流昼食会を「あるぼー」で催しました。昨年の参加者は43名でしたが、今年は政界・経済界の重責にある方、学識経験者・市民活動家等々計52名で中々盛況でした。栄嶋まゆみさんの手際の良い司会も美事でした。陰の企画者植村幸子さんのきめ細かい演出も鮮やかなもので、市内の人材の豊富さを改めて知る思いでした。

開会に先立って故芝房治氏を偲んで黙祷を捧げました。

既にご承知のこととありますが、本会の創立発起人である芝氏が去る1月19日夜急逝されました。芝氏ほど桜井を愛した人はいないでしょう。桜井を愛するあまり、市政に苦言を呈し、景観・環境を破壊するものには妥協することなく論難してやまない人でした。しかし、一面この人ほど人間好きな人もいなかったと思います。

たまたま、亡くなる前夜「今年の交流会は前年より多いですよ。50人は超えるでしょう」と電話しましたところ、とても喜んで「ええなあ、わたしは残念ながらまだ行かれん、賑やかにやって下さい」といわれました。

交流会で提案したことです。が「うるわし通信」でも、芝房治追悼の特別増刊号を発行の予定で進行中です。

さて、賑やかな交流を通じて会員のそれぞれの活動ぶりも見えてきた気がします。

少し気が早いのですが、今年の総会は会員の皆さんの活動の発表会としては……と思っています。立候補して下さい。それから、間もなく4月です。各部会は新年度の計画を立案して下さい。

最後になりましたが、桜井市は昨年、景観条例を施行しました。これは画期的なことで、今年は桜井市の景観元年といっても良いでしょう。そこで市へ終始助言を頂いた三井田先生に本号は基礎的なことを学ぶこととしました。



平成25年1月26日 新春交流昼食会 あるぼー

景観計画・景観条例について教えてください

桜井市景観計画が策定され、桜井市景観条例も昨年10月から施行されました。三井田康記さんは永年にわたって、桜井の景観について、市民と議論され、研究されてきました。私たちのように、日ごろ条文などに不慣れな一般の市民のために景観計画について、教えていただきたいのです。よろしくお願いします。

インタビュアー 浅川

浅川 この景観計画や条例のもっとも大切なところは何ですか？

三井田 まず、景観とは何かという話からしなければなりません。桜井市景観計画の中には次のように定義されています。「景観」とは、山、川などの自然や建築物、道路、町並みなどの人工的なものまで、日常的な生活の場のなかで見ることができるすべての景色（眼に映る環境）のことです。その要素は三輪山や大神神社などの代表的な景観資源だけではなく、季節ごとに移り変わる田園風景をはじめ、まちなみや道筋など人々の暮らしや営みに係る様々な生業も含めたものです。「景観」は地域の誇りや文化が映し出されたものです。市民共有の財産です。

そして、この計画の基本方針として、次のように記されています。

自然や生業によって育まれた景観を保全する。

地域固有の歴史・文化を尊重し、その価値をより引き立てる景観を創造する。

住みたくなる、住み続けたくなる市街地の景観を創造する。

優れた眺望景観を保全する。

協働による景観づくりを進める。

三輪山の景観は自然に放っておいてできたわけではなく、山を信仰の対象として大切にしてきた人々の努力で守られ、受け継がれてきたわけです。また、その風景も山だけではなく、その裾野に広がる畑や水田、瓦屋根と白い壁が織りなす集落の風景が一体となって、「日本のふるさと」としての美しい景観を醸し出しています。「あなたの家も、私の家も、景色の一部」というような標語が以前ありましたが、美しい景観は自然まかせではまもれませんし、つくれません。行政だけでも、事業者だけでも守ることも作ることもできません。行政と事業者と住民とが一体となって協力し合って、はじめて守れ、作れるのです。その前提に立って、それぞれの立場から、ふるさとの景観を守り、さらに次の世代に伝える価値のある景観をつくらねばならない、ということがこの計画の最も重要な考えです。

浅川 色彩について。赤色はとても鮮やかで効果的な色だと思いますが使用禁止になりますか？

三井田 ポイント色としてならば、赤い色も使えます。想像してみてください。心無い人が近隣へ配慮せずに、目立つからと、けばけばしい色の建物を隣に建てたら、あなたはどのように感じますか。きっと、怒りを通り越して、落胆し、地域に対する愛着さえも失ってしまうかもしれません。美しい景観は実にはかないものです。多くの人の気配りで成り立っています。

これまで、「美しい」といつてきましたが、「美しい」と「きれい」とは大きな隔たりがあります。広辞苑によると、「きれい」は清潔、汚れていないこと、という意味をもっています。一方、「美しい」は愛しいとも書き、愛らしい、いとしい、見事であるという意味を持っています。

「きれい」は年を経ると、汚くなります。景観は年を経て、ますます美しくならねばなりません。景観は「きれい」ではなく、「美しく」ありたいと思います。

浅川 建築設計にもいろいろな夢があり、新しいデザインを試みたくとも思いますが、そのような人たちにとって、この景観計画や条例は創作意欲を削ぐことになりませんか？

三井田 色や形態について規制があるからといって、創作意欲が削がれることはありません。かえって、イメージが広がるものです。伝統的な美しい町並みをよく観察すると、屋根も庇も格子も一つとして同じものがないことに気がつきます。それぞれの家が工夫し、自己主張しながら、連なって調和の取れた町並みを形作っています。住んでいる人の品格や知性が感じられるデザインがいたるところに見えます。また、使われている素材を見ると、瓦や漆喰、木などです。こうした、古くなっても美しい素材を使うことも重要だと考えます。

浅川 今後、景観まちづくりを進めるためには普及啓発活動やルールづくりなどが必要になりますが、どのようなことから始めれば効果があるのでしょうか？

三井田 景観計画には次のように記されています。

良好な景観街づくりの実効性を高め、市民意識の高揚を図るため、市民や民間団体と協力し、屋外広告物の一時的な撤去や建築設備の遮へいなど、社会実験の実施を促進します。

実際に行ってみると、効果があるのか、ないのかがよくわかります。平成23年に吉野山で住民のまちづくり団体と一緒に、道路側に設けられた建築設備を木の格子で隠す社会実験を行いました。格子状の遮へいは評価が高かったのですが、自販機を板で覆っただけのものは悪評でした。やはり、まちなみ景観と調和するためには、意匠が大切なことがわかります。写真は、畿央大学の卒業研究で提案された「本町通り仕舞屋計画」です。シャッターを閉めた本町通りの商店の多くは木造の町家型の建物です。そこで、本町通りのシャッターを木の格子に変え、内からもれる明かりで通りを照らそうという案です。かつて、京都の商家は商売をやめると、通りに格子をつけ、仕舞屋(しもたや)にしました。しもた屋とは、商売をしもうた家という意味だそうです。桜井市でしかできない景観社会実験を試みることも、景観まちづくりにとって重要なことだと考えています。



畿央大学 健康科学部
人間環境デザイン学科学科長
三井田康記先生



仕舞屋計画模型

事務局だより

- 事務局会議の場所変更について
事務局会議は毎週金曜日の午前10時から正午まで、「市民活動交流拠点」（まほろばセンター内 第1研修室）で行います。
- 2月の常任理事会は2月23日（土）午後1時30分より「市民活動交流拠点」（まほろばセンター内 第1研修室）で行います。

お知らせ

『脳科学のおばあちゃん』久保田カヨ子さんによる子育て講演会

日時 2月24日（日）受付12：30

開始 13：00 終了15：00

場所 桜井市立図書館研修室

内容 今回の講演会では、脳科学・育児や子育てのアドバイザーとして有名な久保田カヨ子さんを講師にお招きして、久保田さんの豊富な経験と知識に基づいて育児・子育ての在りようをご講演していただきます。

また、育児・子育ての大変さをお感じの方も、やり方や気持ちの持ち様で「楽しい育児」になり、沢山のヒントや気づきがあるとのこと。そんなお話を多くの方に伝えて頂きたいと考えています。



主催 桜井市男女共同参画推進ネットワーク会議

会員募集中 どなたでも(市外の方も)入会できます。くわしくは事務局まで。
年会費 個人 ¥2,000 法人 ¥20,000

編集後記 芝房治氏が亡くなって、本当に寂しい。氏は人も知る共産党の強者だったが、思想を超え、わけ隔てなく人と接した。市井を愛し、議論を愛し、酒を愛した。本会の創立以来、一段と深く接するようになったが、あれも、これもこの世のご縁であった。思えば嬉しい人であった。

(あさ)

うるわし通信編集責任者
〒633-0091
桜井市桜井142-5-203
浅川 肇
TEL090-1961-6345